
2024 年 8 月 24 日(土)夜 『神聖で繋がり合う日』 メール前文

テーマ『誤てる想念がその運命と現われて消えてゆく時に起る姿』

『人間と真実の生き方』

人間は本来、神の分^{わけ}霊^{たま}であって、業^{ごう}生^{しょう}ではなく、つねに守護霊、守護神によって守られているものである。

この世のなかのすべての苦悩は、人間の過去^{かこ}世^せから現在にいたる誤てる想念が、その運命と現われて消えてゆく時に起る姿である。

いかなる苦悩といえど現われれば必ず消えるものであるから、消え去るのであるという強い信念と、今からよくなるのであるという善念を起し、どんな困難のなかにあっても、自分を赦し人を赦し、自分を愛し人を愛す、愛と真と赦しの言行をなしつつゆくとともに、守護霊、守護神への感謝の心をつねに想い、世界平和の祈りを祈りつつゆけば、個人も人類も真の救いを体得出来るものである。

先週は、『人間と真実の生き方』の冒頭の部分を振り返りましたが、今週は、二つ目の節について振り返ってまいりたいと思います。それは、「この世のなかのすべての苦悩は、人間の過去世から現在にいたる誤てる想念が、その運命と現われて消えてゆく時に起る姿である。」の部分です。

この節を理解するためには、冒頭の節に書かれていた”神の分霊としての人間観・自分観”を自らのものとした意識で読む必要があります。なぜかという、「人間（自分）は不完全な者なんだ」といった人間観・自分観のままでは、この節から何の気づきも得ることが出来ないからです。

この箇所では、世のなかに対して私たちが感じている苦悩の正体について、端的に指摘する形で書かれています。ここで「苦悩」と書かれている「悩み」や「苦しみ」を心のなかの泥水に例えてみますと、文字で表わされた文章の意味や実態を客観的に観ることが出来ます。

私たちが、泥水に浸かりきった意識状態でこの節を読んだ場合、想いと泥水が一つになっているため、何度読んでも泥水から離れたところから苦悩の実態を俯瞰することが出来ません。そのため、何十年経っても『消えてゆく姿で世界平和の祈り』が進まない、ということも起こり得ます。

逆に、私たちの意識が泥水の境涯を抜け出し、高次元波動の世界にある場合は、想いが泥水の広がった地上付近になく、空の高い位置から地上を見渡しているため、”苦悩の実態”を俯瞰的に観ることが出来ます。

この部分は、一見すると「苦悩とは過去につくった原因が消えてゆくときに生じている現象である」というように、自然に起こっている現象のようにも読めます。しかし、その実際の様子を具体的に観ますと、守護霊・守護神の導きにより現わしていただくと同時に、消し浄めていただいている姿であることがわかります。

もっとはっきりと申しますと、私たちの守護霊が被守護体である我々の心に蓄積している”過去世から現在に至る誤てる想念（業想念）”を消し浄めるために、当人が耐え切れる範囲で”過去世からの誤てる想念が原因となった苦悩の状態”を現わし、消し浄めてくださっている姿だといえます。

仕事の不調、人間関係の不和、病気、時代の変化についてゆけない等々、この世のなかに私たちが感じていたすべての苦悩は、『人間と真実の生き方』を実践しているうちに、必ず消えてゆきます。実際に、同じ肉体の世界に生きながら、苦悩が薄れた状態、苦悩を感じない状態で生きている人々がたくさんおられます。

それは、神聖の響きそのものである世界平和の祈りによって、肉体に根差した想念習慣が薄れ、神聖に根ざした想念習慣が私たちに標準装備されてくるからです。そのような意味では、神聖を忘れた想念習慣こそが、誤てる想念の姿だったといえます。

神聖を忘れた誤てる想念習慣は、神聖を離れていた時代の記憶に顕在意識と潜在意識が支配されて、それらを手放せないでいる姿であるともいえます。またそれこそが、自己の生命の権能を他に明け渡し、二元対立の思考に終始してきた根本原因であります。

「消えてゆく姿」という言葉は、「人類が争いを止めない様相は消えてゆく姿だ」のように、広義な意味で使う場合と、「私たち自身の意識をよくよく観察して、消えてゆく姿として把われを手放してゆく」のように、本質的な意味で使う場合とがあります。

そのように観てゆきますと、「消えてゆく姿」の真義は、「記憶を手放し、神聖に還元してゆく姿」だともいえます。

ここで二節目をもう一度、咀嚼するように読み込んでみてください。

「この世のなかのすべての苦悩は、人間の過去世から現在にいたる誤てる想念が、その運命と現われて消えてゆく時に起る姿である。」

神聖の自意識を元にして、泥水のなかから抜け出した意識でこの文章を読み込みますと、消えてゆく姿が自然現象ではなく、守護霊・守護神による導きの下に現わし消され、私たちの意識を磨き高め上げるためにある必然の通り道であることがわかります。

泥水というのは、水の動きが鎮まると底に沈みます。心底に沈みきっている場合は、表面意識は泥水を認識できません。ですから、今、心が澄んでいるから「消えてゆく姿を卒業した」とは言い切れず、「消えてゆく姿で世界平和の祈り」は、私たちが完全なる神界の住人に帰る日までつづくといえます。

今度の土曜日は、『人間と真実の生き方』の二節目の「この世のなかのすべての苦悩は、人間の過去世から現在にいたる誤てる想念が、その運命と現われて消えてゆく時に起る姿である。」を改めて一緒に読み込み、”広義な意味での消えてゆく姿”と”私たちが今行なうべき消えてゆく姿の真義”をしっかりと見分けて、手放せずにした記憶を手放し、神聖の意識領域から宇宙神と俱なる光を放ってまいります。

2024 年 8 月 24 日(土)夜 『神聖で繋がり合う日』 初めの話

皆様、こんばんは。夜のズーム祈りの会を始めます。

本日は、『人間と真実の生き方』の二番目の節、「この世のなかのすべての苦悩は、人間の過去世から現在にいたる誤てる想念が、その運命と現われて消えてゆく時に起る姿である」の真実を心に落とし込んで、消えてゆく姿として守護霊さまが現わして下さった誤てる想念を客観視して、神聖の響きのなかに投げ入れて、把われを手放した心で、すべての自然と生きとし生けるものと人類に、宇宙神の光を放ってまいります。

『消えてゆく姿』という言葉は、毎日触れる言葉でありながらも、今ひとつその実態を掴みづらい言葉でもあります。私自身の経験では、世界平和の祈りを始めてから、35 年くらいの間は、『消えてゆく姿』という言葉は漠然と認識していました。

それが、どうやって”消えてゆく姿”の実態を腑に落して実感できるようになったかと申しますと、「”守護霊・守護神さまが消してくださっている姿”と、見方を変えてみたらどうだろうか？」という直観がその突破口でした。

次に、「消えてゆく姿は、法則に則って現われる自然現象じゃあないんだな。守護霊・守護神さまが私たちのすべてを把握されたうえで、乗り越えられる範囲で経験させてくださる”自らを磨き高め上げるために必要不可欠な体験”なんだな」と心の底から思えました。

そうして次々と、「この想いは消えてゆく姿だ」「この見方も消えてゆく姿だ」「この認識も消えてゆく姿だ」「この決めつけも消えてゆく姿だ」「このこだわりも消えてゆく姿だ」と思えるようになりました。

そう思った後に、世界平和の祈りや神聖の言霊を唱えることで、不平不満や不足感、責任転嫁の想い、不調和が実在するという勘違いの想いがだんだんと薄れてゆき、どんどん目に見えて心が軽くなってゆきました。

また他にも、私はいろいろな方法で消えてゆく姿の成就を試しました。そのなかで一番効果があった方法は、「ありがたいな」「ありがとうございます」と、来る日も来る日も一日中の想念を、感謝で塗り替えつづける練習でした。

ですから、守護霊・守護神さまに消していただいている誤てる想念を素直に認め、「ああ、こうやって消していただいてありがたいなあ」と、一秒一秒、一瞬一瞬を、守護霊・守護神さまへの感謝で過ごすことが、消えてゆく姿が本当に消えてゆく一番効果的な方法だと信じています。

もちろん、『人間と真実の生き方』の後半の「いかなる苦悩といえど、現われれば必ず消えるものであるから、消え去るのであるという強い信念と、今からよくなるのであるという善念を起し、どんな困難のなかにあっても、自分を赦し人を赦し、自分を愛し人を愛す、愛と真と赦しの言行をなしつづける」の部分も大切であることはいうまでもありません。

本日は、この世のなかに対して私たちが感じている不完全さ、不調和、不平、不足感…、広い意味での消えてゆく姿の原因を、私たち自身の心のなかに残っている思い込み、決めつけ、こだわり、執着などに観て、それらを手放すことで私たち自身が光り輝き、宇宙神の光を放つ器であることを再確認してまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは時間になりますので、はじめに、世界平和の祈りを日本語と英語で行ないます。

1. 世界平和の祈り

世界人類が平和でありますように。

日本が平和でありますように。

私たちの天命が完うされますように。

守護霊様、ありがとうございます。守護神様、ありがとうございます。

May peace prevail on Earth.

May peace be in our homes and countries.

May our missions be accomplished.

We thank you, Guardian Deities and Guardian Spirits.

2. 自分自身へ向けた『人間と真実の生き方』の読み上げ

はじめに、二節目を7回繰り返して唱えます。

この世のなかに私が感じるすべての苦悩は、私の過去世から現在にいたる誤てる想念が、その運命と現われて消えてゆく時に起る姿である。(×7回)

次は、全体を1回唱えます。

私は本来、神の分霊であって、業生ではなく、つねに守護霊、守護神によって守られているものである。

この世のなかに私が感じるすべての苦悩は、私の過去世から現在にいたる誤てる想念が、その運命と現われて消えてゆく時に起る姿である。

いかなる苦悩といえど現われれば必ず消えるものであるから、消え去るのであるという強い信念と、今からよくなるのであるという善念を起し、どんな困難のなかにあっても、自分を赦し人を赦し、自分を愛し人を愛す、愛と真と赦しの言行をなしつつけてゆくとともに、守護霊、守護神への感謝の心をつねに想い、世界平和の祈りを祈りつつけてゆけば、個人も人類も真の救いを体得出来るものである。

3. 神聖を自覚する呼吸法（呼吸法の唱名）

次は、神聖復活の印のときの呼吸法で5分間、呼吸法の唱名を行ないます。

はい。ありがとうございます。次は神聖復活の印のときの呼吸法で、5分間、呼吸法の唱名を行ないます。呼吸法の唱名をご存知じゃない方へ向けて少し簡単にご説明します。初めに一気を深く吸いながら、心の中で「我即神也」と唱えます。実際にはもっとゆっくり、「わーれーそーくーかーみーなーりー」と唱えます。次に、数秒間、そんなに長くなくてもいいです。息を止めて、心の中で「成就」と宣言します。最後に、息を吐きながら、心の中で「人類即神也」と唱えます。これも息を吐いている間に、心のなかで思うことですので、ご自分の息の吐き始めから終わりまでのペース配分を考えて、「じーんーるーいーそーくーかーみーなーりー」と唱えながら息を吐きます。今回はこの呼吸を、神聖復活の印のときの鼻腔の奥を鳴らすバイブレーションの呼吸法で行ないますので、お尻を締めお腹を引っ込めて、横隔膜を引き上げて、この胸骨の一番下あたりから、この目の奥までの間が肺であるとイメージしながら行ないます。息を吸い切るときには、目の奥にまで息を届かせるイメージで呼吸をします。そして、息を吐くときには、吐き切ることを意識して行なってください。この5分間の間の呼吸の速さは、ご自分の無理のない範囲のペースで行ってください。今から5分間行ないます。音楽が鳴っている間です。終わったら音楽を止めます。それでは始めます。

4. 神聖復活の印

次は、神聖復活の印です。「はい」の合図で、一緒に宣言をしてお組みください。7回連続を3セット行ないます。それでは始めます。はい。

<一回目の宣言>

神聖そのものの私達が大自然を抱きしめながら、宇宙神の光を送ります。

[神聖復活の印を七回連続]

<二回目の宣言>

神聖そのものの私達が生きとし生けるものを抱きしめながら、宇宙神の光を送ります。

[神聖復活の印を七回連続]

<三回目の宣言>

神聖そのものの私達がすべての人類を抱きしめながら、宇宙神の光を送ります。

[神聖復活の印を七回連続]

以上